許嫁（いいなずけ）

細い首に巻きつけた
透きとほるスカーフをひらりと振り
君は風を弾いていた

爪先から散らばった民謡（フォルクローレ）は
その風に乗って
消え入ることなく飛んでゆくだろう

人が死を逃れることのない限り
愛を求める限り

忘却の中に捨て置かれることもあろう
見る影もなく歪められることもあろう、しかし
きっと思い出すだろう

孤独ゆえに狂った君の唄を
人間でありすぎた君の微笑みを
魂の飛び去った傷跡を

(1999.6.1)